

LPガスCP速報(2023年6月積)

1. 6積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **450** ドル (前月比-105 ドル)
ブタン **440** ドル (前月比-115 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、不需要期入りで需要が低迷するなか、産ガス国の供給は潤沢、市況は原油価格の軟化もあり大幅な反落となった。FOB市場はフレート急騰で、買い手は手当てを敬遠、アラムコ系のトレーダーがCFRで捌くため傭船、フレート高に拍車がかかった。インドをはじめ在庫高から輸入需要は減退する一方、米国産カーゴの入着は堅調、需給緩和が際立った。市況を下支えたしたのは中国PDH向け需要だが、プロピレン需給とマージンに死角はないのか。極東CFR市況は第4週プロパン510 ドル 、ブタン500 ドル どころ。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調(グラフ③)、暖冬で不発の需要は不需要期入りで低迷、全米プロパン在庫は増加し前年同期比144%、39週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジを上抜けた。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の下落と高水準在庫から反落した。上旬は350~360 ドル/トン と堅調に推移していたが、中旬以降330 ドル を下回り、中東市場の軟化もあり、月間平均は前月比84 ドル 急落の337 ドル/トン どころ、前年同期比では300 ドル どころの下落(グラフ①参照)、となっている。

フレート市況は、大幅に上昇した。高在庫で滞船が増加するなか、石化プラントトラブルで余剰のLPGをCFRで販売したいサウジアラムコ系のトレーダーがVLGCを10船以上チャーター、船舶需給がタイト化した。パナマ運河の滞船日数は2日程度に落ち着いているが、乾季に入り水位が低下、喫水制限、ウォーターサーチャージが課されることになる。通峡料の値上げに更にコストが上積みされる懸念がある。

ナフサ市況は急落、月間平均は前月比78 ドル の大幅続落で598 ドル どころ。原油市況の軟化に連れ安。中国はじめ石化需要の回復が本格化するのかどうか注視が必要。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比35 ドル 反落の452 ドル となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同59 ドル の続落で689 ドル どころ、ガスオイル市場は低調でC重油との格差も237 ドル どころに縮小した。

6月CPは前年同月比プロパン300 ドル 、ブタン310 ドル それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン8ポイント、ブタン10ポイント下落、前年同月比ではプロパン8、ブタン10ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	80	90	100	105	94
CP先物指標:P	510	490	490	485	494
CP先物指標:B	505	480	485	475	486

② 原油市況等

5月の原油市況は軟化した。市況を下支えしてきた中国の景気回復は、発表された経済指標(4月PMI、CPI等)が低調で需要回復への期待が後退した。米国経済は、銀行危機の連鎖が熾ぶるなか、債務上限問題を巡る協議が難航しデフォルト懸念から金融商品が下落、金融当局の追加利上げへの思惑でリスクセンチメントも動くことになった。サウジのアブドゥルアジスエネ相が原油空売り投機筋に「気を付けろ」と警告、一旦市況は急騰するも、ロシアのノバク副首相がOPECプラスの追加減産の可能性が低いと述べ、元の本阿弥。米国ではメモリアルデイから本格的なガソリンシーズン入りとなり需要増が期待されるが、連休明け、WTIは5月4日以来の70 ドル 割れとなった。米中経済回復の確証がない限り原油市況の本格反騰は見込めず、後は、OPECプラスの対応如何ということになる。

○5月積みアラビアン・ライト(5月1~30日までの想定)は77.80 ドル (前月比-8.05 ドル)

熱量等価AL100% プロパン637.88 ドル/トン ブタン629.13 ドル/トン

AL比 プロパン70.55% ブタン69.94%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2023年6月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
5月月間	138.43	76,500	77,700	-6,400	-5,000

* TTS平均等について、各社の適用為替レートが4月仕切改定から月間平均に統一された。

CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成の比率はCP70%、MB30%で算定。

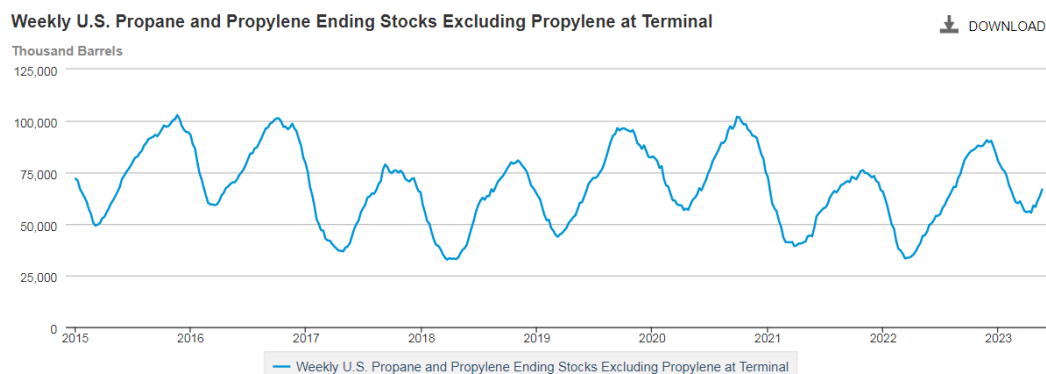
CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは5月26日までの価格を基にEINで試算（337ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移

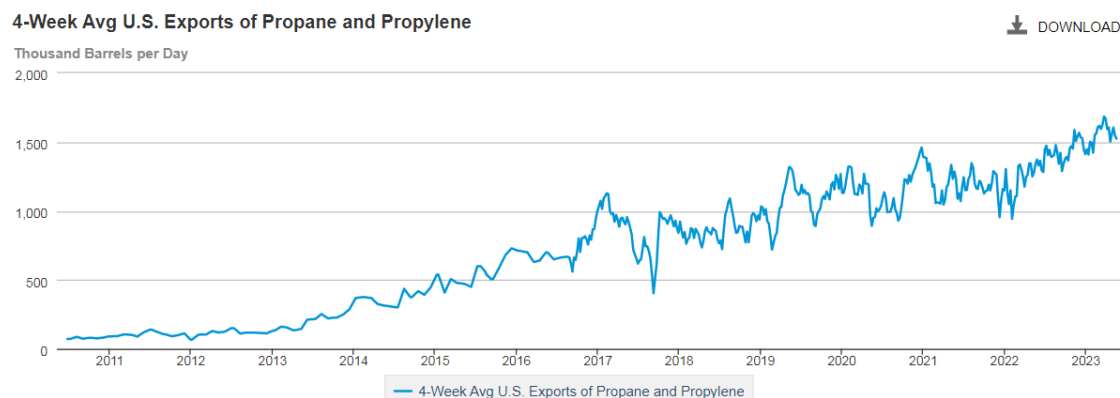


②米プロパン在庫推移



eia Data source: U.S. Energy Information Administration

③米プロパン輸出量推移



eia Data source: U.S. Energy Information Administration